

これからの「みどり」

中村 俊太 愛知県知多郡 十八歳

「みどり」と言うと一般には植物や森林、田んぼ、庭などの自然環境を思い浮かべるだろう。しかし今回は、みどりのもつさらなる可能性を探求すべくみどりを普段とは異なる視点から考察する。まず、みどりと住環境について考える。みどりの葉をつけた木々は風を通すが、日差しを遮るために体感温度、周辺温度を下げる。その上さらに見た目にも涼しい。暑さの厳しい日本の夏にうってつけの冷房設備なのだ。他にも、暴風林や住居のプライバシー確保のための目隠しとして活躍する。このように、みどりは人々が過ごしやすい環境をつくるのだ。次に、みどりをバリアフリーの観点から考える。人間には五感が備わっているが、視覚障害者はとりわけ視覚以外の感覚に優れるという。みどりが持つそれぞれの種に固有の香りは視覚障害者にとって生活の助けになる。例えば、木造建造物独特の木の匂いや、道端に咲く花の芳醇な香りは視覚障害者が自分自身の居場所を認知するのに役立つのだ。視覚障害者のための点字ブロックや音声案内とは違い、決して視覚障害者を特別扱いしない。みどりによる香りデザインは、バリアフリーではなくユニバーサルデザインとも言える。「みどり」はただ自然環境の一部であるのではない。「みどり」は私たちの日々の営みを豊かにし、より高次なものへと導いてくれる。「みどり」をむやみに増やすのではなく、我々は我々の暮らしのためにみどりを活用するべきだ。